

「大阪・関西万博」 私たちからの環境影響評価準備書（生物多様性編）【要約】

公益社団法人大阪自然環境保全協会／NPO地域づくり工房

私たちは、「市民からの配慮書・方法書」（2019年8月）を公表するとともに、2カ年にわたって現地調査を重ね、その記録「夢洲生きものフォトアルバム」を刊行しています。この調査により、①「生物多様性ホットスポット」としての夢洲の価値を再認識するとともに、②埋立工事等により日々これら生き物の生息環境が脅かされており、③万博会場としての開発は回復不可能なダメージを与える可能性があることがわかりました。特に保全対策の緊急を要するものは以下の通りです。

表：夢洲の重要種と開発による影響

区分	生き物の和名	指定			生息環境	開発の影響		備考
		IUCN	環境省	大阪府		埋立	仮設地	
動物	ツクシガモ		VU		干潟	消失	消失	100羽以上（2020年度）
	ヨシガモ	NT			池	消失	有り	
	ホシハジロ	VU			池	消失	有り	5000羽（2020年度）ラムサール1%基準は3000羽
	チュウサギ		NT		湿地	消失	有り	
	タゲリ			NT	湿地	消失	消失	
	ケリ			NT	短茎草地・農地		消失	
	ダイゼン			VU	干潟・湿地	消失	消失	
	コチドリ			NT	湿地・砂礫地		消失	繁殖
	シロチドリ		VU	VU	砂礫地・干潟		消失	繁殖
	メダイチドリ			VU	干潟・湿地	消失	消失	
	セイタカシギ		VU		干潟・湿地	消失	消失	繁殖
	タンシギ			NT	湿地・水田	消失	消失	
	オグロシギ			NT	干潟・湿地	消失	消失	
	オオソリハシシギ	NT	VU	VU	干潟・湿地	消失	消失	
	チュウシャクシギ			NT	干潟・河川	消失	消失	
	ツルシギ		VU	VU	干潟・湿地	消失	消失	
	ホウロクシギ	EN	VU	NT	干潟・湿地	消失	消失	
	アカアシシギ		NT	NT	干潟・湿地	消失	消失	
	アオアシシギ			VU	干潟・湿地	消失	消失	
	タカブシギ			VU	干潟・湿地	消失	消失	
	キアシシギ			NT	干潟・湿地	消失	消失	
	ソリハシシギ			VU	干潟・湿地	消失	消失	
	イソシギ			NT	干潟・河川	消失	消失	
	トウネン			NT	干潟・湿地	消失	消失	
	ハマシギ		NT		干潟・海岸	消失	消失	
	ズグロカモメ	VU	VU	NT	干潟・海岸	消失	消失	
	コアジサシ		VU	CR+EN	砂礫地		消失	繁殖
ミサゴ		NT		海岸・湖沼	消失	消失		
チュウヒ		EN	CR+EN	ヨシ原		消失	国内繁殖地は9か所 ¹⁾	
ハヤブサ		VU		崖		有り		
ヒバリ			NT	低茎草原		消失	繁殖確実	
セッカ			NT	高茎草原		消失	繁殖確実	
植物	ツツイトモ		VU		池	消失	消失	
	ハマボウ			EX	海岸	消失	消失	2019 ³⁾
	リュウノヒゲモ		NT		池、河川	消失	消失	大阪府内では久米田池のみ
	カワツルモ			EX	汽水	消失	消失	
	ヒトモトススキ			VU	海岸		消失	東大阪市天然記念物
	ハマヒルガオ				砂浜		消失	2020 ³⁾ 、大阪府保護上重要な植物 ²⁾
	ハマボウス				海岸		消失	2020 ³⁾
	ツルナ				砂浜		消失	大阪府保護上重要な植物 ²⁾
	ウラギク		NT		塩生湿地		消失	
	ハマエノコロ				海岸		消失	2019 ³⁾ 、愛知県等でレッドリストに掲載

1) 日本野鳥の会ホームページ「チュウヒの過去・現状・未来」参照、 2) 生物多様性センター(2005)種の多様性調査（大阪府）報告書
 3) 植物確認年、数字のない種は2019・2020両年確認。野鳥は2019年6月から2021年7月末までの記録 注：IUCN（国際自然保護連合）記号：EX 絶滅、CR+EN 絶滅危惧Ⅰ類、EN 絶滅危惧Ⅱ類、VU 絶滅危惧Ⅲ類、NT 準絶滅危惧
 「開発の影響」は単純化して記載しており、人との距離、騒音や照明などの影響については考慮していない。

これら生き物の保全は大阪湾の自然再生にとって必要不可欠なものです。この他、多種多様な生き物を確認しました。生物多様性はSDGsの根幹であり、万博の基本目的「SDGsが達成される社会」に向けて、これら生き物を含む「いのち輝く」万博となるように関係者が力を合わせる必要があります。

私たちは、万博計画のあり方について、以下のように提言します。

- ①回避：夢洲での開催を中止し、より環境影響の少ない場所及び開催方法（オンライン会場の設定など）を検討すること。埋立工事は一時中断し、保全対策を優先すること。
- ②縮小及び夢洲内での配置変更：①がどうしても無理な場合は、会場規模を縮小し事業化が見通せていないIR予定地に変更するなど、影響を最小限に抑えること。
- ③安易な代償措置をとらない：代替地の確保や移植などは、科学的な根拠に基づき慎重に検討すること。もし、①ではなく、②③で夢洲を会場に万博を開催する場合は、会期終了後における環境に配慮した撤収と自然再生の計画、2030年を目標とした生態系の多様性確保の目標を策定し、モニタリングを行うこと。

私たちは、調査データの提供、代替案検討への参画、モニタリングにおける協働など、「自然環境に配慮した万博」の開催に向けて協力する用意があります。

以上



の調査・提言活動は独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成金を活用しています。調査結果の詳細、予測・評価については（公社）大阪自然環境保全協会にお問合せ下さい。